

NOTE BOOK

日記

no 26. 2. 12

2月16日 藝工部へ手紙。12.10より家に帰れぬ。娘に下宿。まだ学校へ行って山下君の姉妹同姓へ行くこと。宮川君の世話を焼く。懐かしい。別々の山川君と妻の字をとり。13.30 正法寺の小林君と寺の中へ入る。食し。世に。石の貴い。懐かしい。30分ほど入る。井上君と三郎氏と礼拝。いれ入る。15分ほど。年終。お返し。白井氏の手へ。紙帖。7代。3月。お会い。お返し。

野中、田村君 4000 圓也。山下君礼も来しと（但惟同氏に無理を合せてき
 けし、有也、中在り）五本為巻、田村製造博士、井上君在三軒の所、1.0.2.（近頃の
 人会 3 月、以産松岡豊徳にて 18/10 時、至稿は 10 日締切と）此二石田大成記と
 り、校正受取。惜しむ可也、此は井上之白と我々の寄附也。

ほのぼのと朝床へはめむめつ、左心を右心もまのふれずきて

2月21日 晴。暖し。10.30井上氏に於て正木とて、向うに於て正木。山下君の手紙、近頃大の口をいしてゐる。正木氏、送句を。新沢氏、陶淵明(240)を送る。帰りに晝食してゐる。登學。中島氏に會へば「予も、家明へくさ、やん配しるさ」と。金井君に欠乏をいふ。さう、て理和をいふ。吾口をいふ。氣の毒さ。協理會つたらす。いへ不快。帰りに小林君、講もして来たといふ。葛野君にカキて此の向う會つてゐる。7時45分。宇田・徳永2嬢を越し。沼津中。井上君と申氏来る。や、おて十健来。家賃2,300を後期月給に引く。2嬢帰る。あと井上氏に夕飯をいふ。送つてきて金井君にゆく。徳永嬢は取防氏に送らうといふ。世界地図(意版)とsu。帰宅。けふ、くささといふ歌に首をいぬ。(金巻200同封)

22日 8.45の漢文の講義にかき、帰に京山町役場の支店にてお茶を飲んだ。午後、主に絵本2冊と、書画など15.0円ほど買った。(4時半頃に「俳句」52月号⁷と、善海の手配りあり)。午後井上君と三軒谷の神社へ。

23日 朝和田先生に中国大板読書会は、工科の中を何れ取へ、帰して書斎、壁紙、山下君の逢ふ会に、田中秀共先生の在るをへしと云ふ。校正室の石に坐し、廿三の不平南を、帰して才は、藤居一郎君と会談、南台に来る、品々、外南部の卒業生とて会し、帰るに、酒の中、菱野一雄君と度来しと、夜来し、若山寺に遊つたと云ひ語り、送り出せば、12時すぎ、中井、平凡社、田中実送指士へ、大工、西田曜記の中へ送りして、帰り来しと、中井、教養指士へ、南台は、吾長工科の人のありと云ふ中、心を配る、折々、来訪者とし、3月25日、明のち、大工、月給、家賃、23の引かぬし。

24日 11.30 37. 難し. 起てこれ. 雨時量に5035冊束みし. 学校・市立図書館に1冊おかし.
英系1520室で復旧15235. 13. 12の汽車で終し. 先に出で中州君の留守に. 駅
で山崎新子とていなる187中 215とお越し. 中佐氏. 相村は2つ頃要るにリしと云ひぬ
と92と云ふ前233人⁷と云ふ. 山崎君の死にまつた. 上野. 野庭病院に4人. 城平お父

15日 8.45 777にて中津より 9.45 八達への試験。全然出来ず。16 瀬田にて車中にて
のちの協賛会にて報告の発表あり。中津の地丁の写真を取らせ、2回筆の通書に
て寄す。1回生を村山氏とせし、田村君にはやむを得ずは「要するに15日」とし。
明日は協賛会と。宮崎君に連絡の取れし。山下君に表紙の22にて石田へゆくとある

23日 12.00 江戸子学校。中七。おれ入れたと云ふ比掬(大橋氏車、運動会の日、おれ、中島君車、八木嬢、おれ、おれ)

田村君に送事^北し。月給はらひて出(左山、水二人にて記念品と書物、氣の毒
なれ)帰る^{若森}君、吉野君来り(吉野君エドモ、サヤノさん、不第子と云ふ)
山下君(オムロウ)も来り来り上らず。田中嬢来りおめえと。信永嬢紅
船と顔接合と。佐田嬢餅菓子と云ふ、下里夫人ネーローン(150)と云ふ、赤
塚氏菓子(75)と云ふ。夜食、いかにせし。宮崎君(100771頃)おまゝ東原
君と21.30まであつた信永さんと。若森君が舞台でし。24.40まであつた君活して
帰る。中村49歳即ち「さきへく」と18.30来り降200羽鳥を。西川さん会へといふ。
芳郎清エツハカキ。これ福和堂から各々おの挨拶へ直もし、おしまひておしまひ。
西洋子も来る。

3月24日 6.30起。7.00頃利^{とん}色み^{とん}の^{とん}、7.30普救。急病、中川三郎より。
水塘来りし 8.30来しトコノハは学生4人、その他大勢手付なし。下り堀に包ま
る日氏を以ての活火の跡を各々9.00中川君、福島生を合棒に出発。中仙道
下り。途中やい寒く、逢坂山、山神の権内所下り、いしと歌壇の面子と並
みして45分、14.00着、8500中川君は27745004700とせし帰つて45
分。(中川君村先生佐子より証明書とノート1冊を下さる、在る山で驚きやう
な事あり)。城下高船の理、移りくわ苦き願ふ。堀の向ふに節、節は17.30
過ぎし室員の通はし、市と音談談るきに腹立ちしに化方なし。父死して帰仲す
とつみあり、初夜に寂しきなり。

25日 7.00起。9.30車で城平教区で1回相談会に出て司会者也。城平
教区2回旧談中々3回123427.12.00から。丹羽村へ入る。帰る途中雨。
急流に客車に乗る。夜電走つて13~14時中。車で止る。元々
上り客車に乗る。13~14時。翌日2回15~16時 Van de Verde
村。夜に2回乗車出身が11~12時。12時。布施両部役所へ5時。5時。
若杉君へ10時。京。夕方に11時。12時。13時。14時。15時。16時。17時。18時。19時。20時。21時。22時。23時。24時。25時。26時。27時。28時。29時。30時。31時。32時。33時。34時。35時。36時。37時。38時。39時。40時。41時。42時。43時。44時。45時。46時。47時。48時。49時。50時。51時。52時。53時。54時。55時。56時。57時。58時。59時。60時。61時。62時。63時。64時。65時。66時。67時。68時。69時。70時。71時。72時。73時。74時。75時。76時。77時。78時。79時。80時。81時。82時。83時。84時。85時。86時。87時。88時。89時。90時。91時。92時。93時。94時。95時。96時。97時。98時。99時。100時。101時。102時。103時。104時。105時。106時。107時。108時。109時。110時。111時。112時。113時。114時。115時。116時。117時。118時。119時。120時。121時。122時。123時。124時。125時。126時。127時。128時。129時。130時。131時。132時。133時。134時。135時。136時。137時。138時。139時。140時。141時。142時。143時。144時。145時。146時。147時。148時。149時。150時。151時。152時。153時。154時。155時。156時。157時。158時。159時。160時。161時。162時。163時。164時。165時。166時。167時。168時。169時。170時。171時。172時。173時。174時。175時。176時。177時。178時。179時。180時。181時。182時。183時。184時。185時。186時。187時。188時。189時。190時。191時。192時。193時。194時。195時。196時。197時。198時。199時。200時。201時。202時。203時。204時。205時。206時。207時。208時。209時。210時。211時。212時。213時。214時。215時。216時。217時。218時。219時。220時。221時。222時。223時。224時。225時。226時。227時。228時。229時。230時。231時。232時。233時。234時。235時。236時。237時。238時。239時。240時。241時。242時。243時。244時。245時。246時。247時。248時。249時。250時。251時。252時。253時。254時。255時。256時。257時。258時。259時。260時。261時。262時。263時。264時。265時。266時。267時。268時。269時。270時。271時。272時。273時。274時。275時。276時。277時。278時。279時。280時。281時。282時。283時。284時。285時。286時。287時。288時。289時。290時。291時。292時。293時。294時。295時。296時。297時。298時。299時。300時。301時。302時。303時。304時。305時。306時。307時。308時。309時。310時。311時。312時。313時。314時。315時。316時。317時。318時。319時。320時。321時。322時。323時。324時。325時。326時。327時。328時。329時。330時。331時。332時。333時。334時。335時。336時。337時。338時。339時。340時。341時。342時。343時。344時。345時。346時。347時。348時。349時。350時。351時。352時。353時。354時。355時。356時。357時。358時。359時。360時。361時。362時。363時。364時。365時。366時。367時。368時。369時。370時。371時。372時。373時。374時。375時。376時。377時。378時。379時。380時。381時。382時。383時。384時。385時。386時。387時。388時。389時。390時。391時。392時。393時。394時。395時。396時。397時。398時。399時。400時。401時。402時。403時。404時。405時。406時。407時。408時。409時。410時。411時。412時。413時。414時。415時。416時。417時。418時。419時。420時。421時。422時。423時。424時。425時。426時。427時。428時。429時。430時。431時。432時。433時。434時。435時。436時。437時。438時。439時。440時。441時。442時。443時。444時。445時。446時。447時。448時。449時。450時。451時。452時。453時。454時。455時。456時。457時。458時。459時。460時。461時。462時。463時。464時。465時。466時。467時。468時。469時。470時。471時。472時。473時。474時。475時。476時。477時。478時。479時。480時。481時。482時。483時。484時。485時。486時。487時。488時。489時。490時。491時。492時。493時。494時。495時。496時。497時。498時。499時。500時。501時。502時。503時。504時。505時。506時。507時。508時。509時。510時。511時。512時。513時。514時。515時。516時。517時。518時。519時。520時。521時。522時。523時。524時。525時。526時。527時。528時。529時。530時。531時。532時。533時。534時。535時。536時。537時。538時。539時。540時。541時。542時。543時。544時。545時。546時。547時。548時。549時。550時。551時。552時。553時。554時。555時。556時。557時。558時。559時。560時。561時。562時。563時。564時。565時。566時。567時。568時。569時。570時。571時。572時。573時。574時。575時。576時。577時。578時。579時。580時。581時。582時。583時。584時。585時。586時。587時。588時。589時。590時。591時。592時。593時。594時。595時。596時。597時。598時。599時。600時。601時。602時。603時。604時。605時。606時。607時。608時。609時。610時。611時。612時。613時。614時。615時。616時。617時。618時。619時。620時。621時。622時。623時。624時。625時。626時。627時。628時。629時。630時。631時。632時。633時。634時。635時。636時。637時。638時。639時。640時。641時。642時。643時。644時。645時。646時。647時。648時。649時。650時。651時。652時。653時。654時。655時。656時。657時。658時。659時。660時。661時。662時。663時。664時。665時。666時。667時。668時。669時。670時。671時。672時。673時。674時。675時。676時。677時。678時。679時。680時。681時。682時。683時。684時。685時。686時。687時。688時。689時。690時。691時。692時。693時。694時。695時。696時。697時。698時。699時。700時。701時。702時。703時。704時。705時。706時。707時。708時。709時。710時。711時。712時。713時。714時。715時。716時。717時。718時。719時。720時。721時。722時。723時。724時。725時。726時。727時。728時。729時。730時。731時。732時。733時。734時。735時。736時。737時。738時。739時。740時。741時。742時。743時。744時。745時。746時。747時。748時。749時。750時。751時。752時。753時。754時。755時。756時。757時。758時。759時。760時。761時。762時。763時。764時。765時。766時。767時。768時。769時。770時。771時。772時。773時。774時。775時。776時。777時。778時。779時。780時。781時。782時。783時。784時。785時。786時。787時。788時。789時。790時。791時。792時。793時。794時。795時。796時。797時。798時。799時。800時。801時。802時。803時。804時。805時。806時。807時。808時。809時。810時。811時

26) 警察申告あり。市路山、光根、紅土へ電話通知。9.00市立会社へ中野廣平に欠
大沢洋吉、杉原君に欠、倉庫部へ中野に欠。電話に申告書出せ、授業書
でもつかし欠す。先日主語の1500も欠。野佳、紅土、手續の欠で遅れ
は11.00欠事、2000欠に欠も欠。区に出た書類せとすれ、左粉
保名、紅土の欠で呼出し、川安の夕食本に欠、室屋呼出せ、中野に欠す。

20. 〇 奥母杉浦、娘歸安傳を呼出た話あり。廿二日中禪子、結末2世義
へ挨拶の人か干かく。両月上、くわすの、羽田へ報告通知。

3月27日 朝6.30起床。7.00まで会社へかき傳へ給ふ。庶務課長竹村氏
と已役所へ行き、轉校の手続きをし、課長宅へ往て筆墨を交へし。校文十字。
校中や学校を厂訪、会社で晝食を喰ふ。事務の礼をへしあり。番井さんへは會
合の約束に於て、また晝食を喰ふ(山に還る産子)。杉浦重田出立りの
暇に初校知母の姓を知る。市立病院に田村豊太郎を訪ねる。帰る。
徳島駅前で金子通務「社会生活の研究(80)」を讀む。帰りに合へば、停電。
和歌山の繁昌「山に還る産子」を讀む。其の意をわかにせしむ。とほく。23.30まで
下かいにて主食の表示。眠らずにかき書く(中の却却、数行は土。石谷
見、服部正己)。

28日 8.00 会社へおあけの表しを申しに竹村君勤生へお参り。表し代表として
(株)を申しにせんとお参り。外へ出てよりお参りのフーボンを直表しにせんとお参り。
坪井に於て途中敷盤し(80)。銀行に於てお参り。金井君のせいに於て浪速大
学に於てあり国文を教しお参り。よりしに於て。学校までお参り。昼食に於て。12.30
出て大野に於て。百貨店で村田治郎。満洲の大鐘(150)のフーボンを上(30)
買ひ。せんとお参り。夜に於てお参り。監督に於て。字を教へ。近
くに於てお参り。D 宣う村山。宮城。近頃の折合をしに於て。香の海の
香を更し夜に於てお参り。よりしに於て。よりしに於て。よりしに於て。よりしに於て。

29日 錦織恒史、林正敏、建、泰一、大、西川英夫へ報告通知。陽子、西村聖紀、外山
小川若八同。太田孝弘、相野忠雄、尾西実、沼清彦、重取れ一同。信子、幸三
池田医院へ。水戸で診てしる原因不明。11月案内を足踏し一人臥床。室中
に中かせしむ促振り。1200すぎ会社へ中主女へ連絡済むべし。13.23にて
五王寺へ中主市民病院へ中かぬ由封書状出張と。石渡美生へタビツト57(500)
おれぬ。園主へ呼びあがりし。嬉しさいふ事云々いひしやう上。薩摩市史文
一寸来り水屋計氏父君の父中主に出た。博々大金貯蓄金にて「金子家活(30)」
名曰吉「飛鳥文(50)」体温計(200)置入。夜低痛の鳥飼集所でもした。
11月差振工の回送のくちさつ710部。大塚北平二万二千五百一(15)置入。
会社へ祖國4月号来た。

[illegible]

侯群、長山、吉群、豐房、定邦、蔚野九、香井通昭、若松、十喜昭一郎
への献辞。

4月30 雨。カキ葉陰。青木富太郎。カキ根を以て。江口三三。江口世也。与達証へて
 爲。近藤豊信氏へかき。10.00金証へて事務に礼いふ。事務に礼いふは
 11.00一息家へかき酒1升でかき茶井寺。大に叔母不在。叔母知母。本屋
 へ息子と話し肥下の中を話しして帰る。叔母の色をかく。市浦美子に土台の
 かきう名をうと。事務。都合何てかきへかきと。甚奇入社せしむ。21.20帰
 宅。雨日良。石巻のなか。近江話人全の通也。塾中居てかきく。地
 内民一より果屋高松へかきしむ。182大鉄石保名へて吹田二万五千方之。下
 手本文。江口物語。世新学人名辞典。書む。大に叔母を以てさく。

4日 5日 雨、2)すむ止り史を布施へり雪ふり(350)。岩山に依り手紙、共森
君共集、和むしかりて我にふり。夜山、水2生りハカキ。新坂甚右衛門、島、三
本為地中、雪、坂、堤、(東屋古坂、ハカキ)雪、飾本儀、ま吉、杉森、杉浦
云一、平戸、姫群、有海津繁、白鳥清、篠田純、信氏ハ新坂通也。主君上御使同
同、父来り夕食(2、9ハ)鉄200(3、4、5)月城平坂文の10000古(2、3、4、5)、服部
ハハカキ、豊橋面白(2、3、4、5)夜入浴。

5日 到、会社へ来て一週に及ぶ早急の心で居た。父の友である文君、各計
とてこれより手を取り、可なり学校に熱心なところだといふ。小(妹)冊不
えて教習に在り其二の家の中に依る者去ては持歸すべしといふわけにて
可家へ来りて津(弟)三郎他を有せし。才力此人同行の道も持歸す。しやと
いふ所ありしか、7といふ。わかれのしやハリと無用なく、ニセ話人金巻
くろが話の端物なり。龍虎見るとかゝるものなり。13.30学院へ来て、金巻
あやめへて或る。9日高松の南華式にて、才の出る答者なり。在大口又之
院の14日良朋と二人を相中にして、依る者又一重人なり。鷗外も風流
なり。その間、虎杖丸の曲をまじると。夕合工はれてといふ。池田といふ
は在る。夫人へ世に抱き、悲觀的なるを以てせしむる事。笑ひ、同輩時主
野村男の友人たるを喜んで氣の毒なり。足立路の世に親氣に上り其の佳句
と、情木44年外研功人か中、241是日何美、その有なりと。又昔年西村東
り24年の世に話し、サチの54しや、7といふ。おれは。

と返して貰ふ。大寺前へ来て坪井に会ふ。出て藁藁29。里のり5リ返し。
晝食後230。15.00江戸宿管へ入。手付の一人も居し。夜新浦、津田、安
倍の汁粉くはせて沈着し。やいて来たし西村の明日は日工の同宿をいふ。手
付にせておはしてゐる中。去たう声におどろきて中々此かや42の火(3室竹
中)幸ひに大事を44しも驚きの初様せし。此より彦根に足職の辞令に結
永嬢の手紙。姫野氏の力中。

16日 17.30 家を出。定期室(省経360、上り線140)、9.00 登校。1時間し
て杉山平一授業あり。東条先生より12の会々も会々あり。1
時間同厂。女中より工を治せし。2時間同万巻等をやると
す。1人服飾科で漢文、古史漢語をいしとふものあり。帰り西屋
口文庫入り。百巻方体あり。帰り、天井あり。散髪屋あり。し
たり。玉本が200円あり。高利貸大あり。大、世田
りあり。

18日 去古田村与生父话，谈及《儒林外史》。9.10天王寺着。至下谷后下
古田村，与生父话。谈及《儒林外史》。9.10天王寺着。至下谷后下

4月19日 8.20 会社へ事務係へ向種々話す。松尾部長と主人にて西村へ此で礼云々。
 之より預りし履歴書がなし。10.00 車に事務係の Zunge 大佐と乗る。帝塚山の山頂へ登
 り水を見て。本宅へ電話せし主君へかかると。長沖一氏と話し。西保實、志願（石池先生）
 と云う感心し。縁談の問合せをすして帰る。2.00 出来ず。金井君の森屋、折浦工
 人かき。辰巳新名工のあやまち状。夜部屋等にてはH室全部押さへられ。責任は
 之より通す衣川と話し。健（病院にて Zunge 大佐と話し）帰り来し西村と
 話し。丁度。

2/6 登校。二へ娘は足が不機嫌で無理に歩かせた。西任嬢は秋、批評とて、
3時間、100減のし。ハニ吉の終小の石谷君来り。本小博士と長崎は二の会へた
くつとせ。石谷先生は22日13.00から2時の会と。我橋の中を画帖買
へた。2冊で1400! 記柳之五郎、鷗外翁記 (60) 2冊。茅野全一、国文学史十講
大山定一、小説の発展、高木繁吉、軍事思想と二冊。帰り道、丹羽千作の
会へた。丹羽山下英雄は丹羽千作。不二工運轉とて。南軍治兵、桃山書院へ赴任。
井上芳三、三井の、あすは、本工、梅原系子、工、本道、とて。

22日 5.30 起て17.00 出て岩村へ行く。8.00 まで着。9.20 まで試験。2.3 まで働く。故、1 年と5.2 まで行へし。早知出来た22日同じと。2.3 まで行へし合はて。15.30 出て同村岩村へ行く。井上芳子、古代女性史論、71-2 まで行へし2 枚。

会誌の国家理論¹、ウエブ-マース(向原婚史² 信子(女学様 乙二九
虎理女³ 人か⁴ 受取⁵、ミミ大隈由山⁶ 第⁷ 七⁸ 七⁹ 七¹⁰ 七¹¹ 七¹² 七¹³ 七¹⁴ 七¹⁵ 七¹⁶ 七¹⁷ 七¹⁸ 七¹⁹ 七²⁰ 七²¹ 七²² 七²³ 七²⁴ 七²⁵ 七²⁶ 七²⁷ 七²⁸ 七²⁹ 七³⁰ 七³¹ 七³² 七³³ 七³⁴ 七³⁵ 七³⁶ 七³⁷ 七³⁸ 七³⁹ 七⁴⁰ 七⁴¹ 七⁴² 七⁴³ 七⁴⁴ 七⁴⁵ 七⁴⁶ 七⁴⁷ 七⁴⁸ 七⁴⁹ 七⁵⁰ 七⁵¹ 七⁵² 七⁵³ 七⁵⁴ 七⁵⁵ 七⁵⁶ 七⁵⁷ 七⁵⁸ 七⁵⁹ 七⁶⁰ 七⁶¹ 七⁶² 七⁶³ 七⁶⁴ 七⁶⁵ 七⁶⁶ 七⁶⁷ 七⁶⁸ 七⁶⁹ 七⁷⁰ 七⁷¹ 七⁷² 七⁷³ 七⁷⁴ 七⁷⁵ 七⁷⁶ 七⁷⁷ 七⁷⁸ 七⁷⁹ 七⁸⁰ 七⁸¹ 七⁸² 七⁸³ 七⁸⁴ 七⁸⁵ 七⁸⁶ 七⁸⁷ 七⁸⁸ 七⁸⁹ 七⁹⁰ 七⁹¹ 七⁹² 七⁹³ 七⁹⁴ 七⁹⁵ 七⁹⁶ 七⁹⁷ 七⁹⁸ 七⁹⁹ 七¹⁰⁰ 七¹⁰¹ 七¹⁰² 七¹⁰³ 七¹⁰⁴ 七¹⁰⁵ 七¹⁰⁶ 七¹⁰⁷ 七¹⁰⁸ 七¹⁰⁹ 七¹¹⁰ 七¹¹¹ 七¹¹² 七¹¹³ 七¹¹⁴ 七¹¹⁵ 七¹¹⁶ 七¹¹⁷ 七¹¹⁸ 七¹¹⁹ 七¹²⁰ 七¹²¹ 七¹²² 七¹²³ 七¹²⁴ 七¹²⁵ 七¹²⁶ 七¹²⁷ 七¹²⁸ 七¹²⁹ 七¹³⁰ 七¹³¹ 七¹³² 七¹³³ 七¹³⁴ 七¹³⁵ 七¹³⁶ 七¹³⁷ 七¹³⁸ 七¹³⁹ 七¹⁴⁰ 七¹⁴¹ 七¹⁴² 七¹⁴³ 七¹⁴⁴ 七¹⁴⁵ 七¹⁴⁶ 七¹⁴⁷ 七¹⁴⁸ 七¹⁴⁹ 七¹⁵⁰ 七¹⁵¹ 七¹⁵² 七¹⁵³ 七¹⁵⁴ 七¹⁵⁵ 七¹⁵⁶ 七¹⁵⁷ 七¹⁵⁸ 七¹⁵⁹ 七¹⁶⁰ 七¹⁶¹ 七¹⁶² 七¹⁶³ 七¹⁶⁴ 七¹⁶⁵ 七¹⁶⁶ 七¹⁶⁷ 七¹⁶⁸ 七¹⁶⁹ 七¹⁷⁰ 七¹⁷¹ 七¹⁷² 七¹⁷³ 七¹⁷⁴ 七¹⁷⁵ 七¹⁷⁶ 七¹⁷⁷ 七¹⁷⁸ 七¹⁷⁹ 七¹⁸⁰ 七¹⁸¹ 七¹⁸² 七¹⁸³ 七¹⁸⁴ 七¹⁸⁵ 七¹⁸⁶ 七¹⁸⁷ 七¹⁸⁸ 七¹⁸⁹ 七¹⁹⁰ 七¹⁹¹ 七¹⁹² 七¹⁹³ 七¹⁹⁴ 七¹⁹⁵ 七¹⁹⁶ 七¹⁹⁷ 七¹⁹⁸ 七¹⁹⁹ 七²⁰⁰ 七²⁰¹ 七²⁰² 七²⁰³ 七²⁰⁴ 七²⁰⁵ 七²⁰⁶ 七²⁰⁷ 七²⁰⁸ 七²⁰⁹ 七²¹⁰ 七²¹¹ 七²¹² 七²¹³ 七²¹⁴ 七²¹⁵ 七²¹⁶ 七²¹⁷ 七²¹⁸ 七²¹⁹ 七²²⁰ 七²²¹ 七²²² 七²²³ 七²²⁴ 七²²⁵ 七²²⁶ 七²²⁷ 七²²⁸ 七²²⁹ 七²³⁰ 七²³¹ 七²³² 七²³³ 七²³⁴ 七²³⁵ 七²³⁶ 七²³⁷ 七²³⁸ 七²³⁹ 七²⁴⁰ 七²⁴¹ 七²⁴² 七²⁴³ 七²⁴⁴ 七²⁴⁵ 七²⁴⁶ 七²⁴⁷ 七²⁴⁸ 七²⁴⁹ 七²⁵⁰ 七²⁵¹ 七²⁵² 七²⁵³ 七²⁵⁴ 七²⁵⁵ 七²⁵⁶ 七²⁵⁷ 七²⁵⁸ 七²⁵⁹ 七²⁶⁰ 七²⁶¹ 七²⁶² 七²⁶³ 七²⁶⁴ 七²⁶⁵ 七²⁶⁶ 七²⁶⁷ 七²⁶⁸ 七²⁶⁹ 七²⁷⁰ 七²⁷¹ 七²⁷² 七²⁷³ 七²⁷⁴ 七²⁷⁵ 七²⁷⁶ 七²⁷⁷ 七²⁷⁸ 七²⁷⁹ 七²⁸⁰ 七²⁸¹ 七²⁸² 七²⁸³ 七²⁸⁴ 七²⁸⁵ 七²⁸⁶ 七²⁸⁷ 七²⁸⁸ 七²⁸⁹ 七²⁹⁰ 七²⁹¹ 七²⁹² 七²⁹³ 七²⁹⁴ 七²⁹⁵ 七²⁹⁶ 七²⁹⁷ 七²⁹⁸ 七²⁹⁹ 七³⁰⁰ 七³⁰¹ 七³⁰² 七³⁰³ 七³⁰⁴ 七³⁰⁵ 七³⁰⁶ 七³⁰⁷ 七³⁰⁸ 七³⁰⁹ 七³¹⁰ 七³¹¹ 七³¹² 七³¹³ 七³¹⁴ 七³¹⁵ 七³¹⁶ 七³¹⁷ 七³¹⁸ 七³¹⁹ 七³²⁰ 七³²¹ 七³²² 七³²³ 七³²⁴ 七³²⁵ 七³²⁶ 七³²⁷ 七³²⁸ 七³²⁹ 七³³⁰ 七³³¹ 七³³² 七³³³ 七³³⁴ 七³³⁵ 七³³⁶ 七³³⁷ 七³³⁸ 七³³⁹ 七³⁴⁰ 七³⁴¹ 七³⁴² 七³⁴³ 七³⁴⁴ 七³⁴⁵ 七³⁴⁶ 七³⁴⁷ 七³⁴⁸ 七³⁴⁹ 七³⁵⁰ 七³⁵¹ 七³⁵² 七³⁵³ 七³⁵⁴ 七³⁵⁵ 七³⁵⁶ 七³⁵⁷ 七³⁵⁸ 七³⁵⁹ 七³⁶⁰ 七³⁶¹ 七³⁶² 七³⁶³ 七³⁶⁴ 七³⁶⁵ 七³⁶⁶ 七³⁶⁷ 七³⁶⁸ 七³⁶⁹ 七³⁷⁰ 七³⁷¹ 七³⁷² 七³⁷³ 七³⁷⁴ 七³⁷⁵ 七³⁷⁶ 七³⁷⁷ 七³⁷⁸ 七³⁷⁹

4月23日 ~~中野正から江戸へ来た。父が、とある。父は、~~
備えしものを、中野正に提出。万葉集を提出。立寄りの1000にて帰る。
岩崎君より、朝鮮人を告発する二人の信を秀頼に大々的に示す。其時清和君より
25日16.00上谷十衛門前に行くと。此の日幸三郎に電話も通じない。杉山平一
「憲法地帯」1冊贈る。梅屋敷子、岩崎明彦、石坂洋次郎、井上喜久夫、南条武治の
諸人への手書。

24日 登校。高校・漢文。文への教科教育が主であることは話し、また高校の漢文。2つ向とし卒業もした。帰途大寺前へ歩くと、坪井出展。石山道一（金210年）以上（10年）金井君の發歴書と2つ4人2人2人帰る。近江詩人会の宣旨と Poets' School 9。22大の年度末手者と互助会とで 2/50。

25日 量枝主へ大鉄百貨店より、比律書式⁷2冊(100)。1冊は漢文として取り入れ、2冊
来し石谷君とヒモル大君(阪大南校)の中之圖書館見出しとす。神田力郎君の挨拶
し、此處で別々。我橋に出で十合と、与田安先随筆集4冊(100)⁷買ひ、上六に
かき百貨店の古書即売会より、懐風藻(40)⁷買ひ。塾中、山口2君と合ひ、7-7-
7-キ、苦酒水とす。会費として会費200出すこととし、秋五。別々でまた学
院。第2部の入会式の出、おし合ひの押入れ、22.00。井上君とヒ、吉野の2君
・、57人かき。客土の押し、5000とす。

26日 8.30会社へ来て康平知父の在事について話した。康平知父の父、理事長宅へ一度
お伺いせよ。10.30帰って晝寝せんとせしかる出車す。佐倉駅前へ散歩に出て
臨外、栗山大膳(6)へ、人佐と佐枝(50)へ里へ。折浦、吉村、津田、安部等の
事いふを伺ひかゝると思ふ。夜、原課長にゆきて話す。

27日 朝一早起して晝寝。午後1時30分/2.00起して3.00から7. 沼澤、万葉
集講話、L狐の物語(60) 約5車から4L。略解300と100から1. 24金
紙と10. 折子2脚と32. 5月30日入管には用石12. とまのて満橋のせ
坪井、吉永の会、松田、略解72と10. 土蔵107・(80)と10. 坪井の

大人工(全釋)萬安(信)9. 18. 19. 乘車. 1700. 1700. 前川工(礼状). 亮祖工
討(駿手)300(一税)運(車)3. 夜(帰郷)妻(山)前(氏)運(亮祖)嶋田(女
工(礼状).

4月28日 豊後、国文学史の、サラー・モリス(17500)、藤井寺へやましの水色を知り、
不徳名母五字にふれ、早乙退治、肥下の奇々しき田圃、新出で、草花の種子、
(55)、法庵で名刺、アツヘ(130)で増主、島嶼、ハカチ、杉山、一、
幣の批評。青招、短大、最谷、九事、より補点、
角川、エフ、ハイネ、
二。

29日 予二「へ」四月二十九日今日。素根の岩を入手しに浦安から、杉江、島へ八かきかき 9.00 出て、雄、布施をくると鶴橋で電車、大井川で力夫を合ふ(2時40分~120の女10分)。社長へは350位の菓子工から見て、4草を帰やともしやまゐる様子。出て、~~下車~~下車、隔離花彩上「雲」云、武田右衛門「古典の精神」買ひ、帰れぬ一本娘あり、Harperの「いづれ法典」借りに10月10日と決すと23へ岩崎の「来り」祖國5月号買ひ、夕飯云へとして帰し、養生と74し22.00。けお立原送送の多紙なくつしむ交付。西村の改めが。

30日 8.00 登校。杉山一と話し、1児院、1児肺病と云々。大万葉と云々。鶴橋で金、天鼓高橋へ中本、Harperの“The code of Hammurabi”借り。金井君、高橋の二つと、生駒君、秋子同士の事と云々（後者7月部々云々）中村厚吉の会、靖海記の云々、不悦の男と云々。20.30 帰。西村の2部屋、1人住ると云々。梅屋敷の云々、3日待つと。山下幸雄の履歷書。並山英子嬢の手紙。祖國3冊。

5月1日 4時向校量し、窪田室穂と和泉式部⁷アグストアス、⁸姓⁷實²。市民病院にナ
は考故症をたて。早出で那世界のナリナ一⁷婚姻の活形式⁷(30)思²。早出で松政
氏で青木良吉⁷西洋服飾史要⁷(50)買²。4日前の焼²食²で17.00と初登校。夜
学を教へ、2年生3名とモ太出。その中9/人²鶴橋本⁷同車²に帰³。茅野清⁷の
級²で話。会社で酒肴種³。わがわがす。

又 登壇主として原君の会社へ(2)と金押紙の中へと答へ、講義・才主也(28)と26
字主と高松生と(2)と石君と出で、新保山書店の中へ吉沢君、(40)「
思ひ出(40)」「自文万葉集(150)」古風土記集下(10)「南洋文南目録(40)」電文、但古
文へ、山本君の礼へ、帰途会社へ2城平教文の会へ、徳延師の22一冊、藤井君へ

5月19日 登校。鋤井克之氏に25分講義。112体のうち2時間のみなり
や。Mio西條の法論を歌了番に。あつて吟5首をえり。伊井、山城
2巻をつれ帰す。13~16。17.00に3時出た。中原中也の「祖国」をきき
た。これは足尾銅の歌で、近江兄弟社の歌とある。足尾銅の歌は、
田村、東村の歌とある。佐紀子の歌は、今月に入3,000。4月の
外は14,000費した。5月9.00で平坂文庫。112冊37-45冊に
17,000。おくらへて、夜井上敬造師へ手紙。

20日(日) 1. 地ノ坪中へ夕32会通告。9.00より懇談会。城平松久、松尾部長の
席。10.30より。晝食して12.40の太陽院にて。ハチタ君 15.00より。八日市
まで守山の岩崎君と中王。ついで江村村長一生生外。宇田囃子。ついで
徳永囃子と車3.16.40出て乙比ハチタ君と出。二囃果物屋にて乙比。15.26
にありて東西へ分れ。20.00より帰宅。112車にてHamurabiの活典55
つと見たし。ハチタ君より明日来ると。山ノ山崎より乙比夕32会通告。雲井書
店より月主車より乙比午後飯を喰へ。

21日 登校主へ折師氏来りし。三郎子君と一々して。ヤセて阿佐野橋にて電車
故障。ハズレでPL。西條、伊井二君の話を聞く。八木嬢との電話をせよと
上七で1時向う来る。鶴橋から学校へ整中君がハル「授業中や通会」です
と。秋^{ニッパ}~~ニッパ~~帰る来たかです。八木嬢の会ひ。家へとしそむ。16.00に
出て上七。信子君来るとしてすし食出す。何重井書なへ。羽根通知。田中秀
央「アエー」2冊(100) プレー「口伝不」2冊(40)「じやア。さん分電
カ。帰途は散策の量回信士大専の会ひ事。

22日 登校。高校遠征にて授業なし。右掌指土にけがす。漢文のテキストについて
帰る。天鉄レポートで、松田と藤谷を忘れたので2冊読む。帰りに安岡
章生のかきと猿渡主事と。荻野千一様の人評中、国語和文は偉大である
とかき。岸田「悪魔」(郵便不足54)エッセイなど。熊本の校長を車に乗せて
呼ぶ。来日。会話は料理屋の中。かなづかて帰る(20.00)康平お父さん腹
出ていじ松尾。居たの話をしつゝあり。室長会をやったA(お前さん)との
こと、といひおふりさへいふ。

5月20日出勤。法隆寺内前下の宮寺1枚大田西佐君へ札。教授会司事の
 宛にレレたり也。若井の十を教授会へレ下元帰すは知又かへる待
 事候。山月給の元は自より。康平知父は主人。松尾は主人にレレる
 し。宛にて下元ハスありし其太田。驚き大田の十を十字格。家。檀家とスレ
 りて会に相馬の元をレレしと互に驚き。八尾へ出て帰す。すく。服にレレせし
 吉田鳥飼ら3人上段の世生に会にレレし1000倍の事し。其の若佐。武田。
 三品とて近名の佐渡ののくす。若佐23, 26両日ハ極星油。羽倉
 江の電話係。楚中。土井井の金井君のレレキ書返。江のの今依同封しあり。

29日 朝下元生から電話。塩野、藤田紀、安田孝生へハナシ。奥西佐君へ池内先生のこゝの手紙。石浜弘氏に神戸青丘の挨拶。並に二つ一車に乗る。田中は居住地手考か増し、ワケウレ月給が上りたと言ふ。万が一の場合、二定をいし由、松田新男、森谷白子と相談。相野に山下君の業績を送付。山下君の三つ台通知。下元鼻血おこして池田医院へ行。17.00 岡村千子母君の会。一車乗る。地図4枚貰ひて学校。2時間目以後所出身の嫌なり(他に重、渡辺三葉子)直橋まで同車話し、帰リ、池田医院へ中出しをせむ化け。川崎学校へ大洗君に乗りかゝる電報。

25日 7.30 家を出て9.00 天理へつゝ大沼君の家へつゞき登校。手紙出して2冊
1冊16.30まで。果てしなくつゞく。図書館へ行く途中。八木嶺へハムロウカ
し。とてつゞきハムロウ君の家。室に中へつゞく。大沼の工石造養生の母行きの
中。ハムロウ君の家へつゞきハムロウ君の家。12.00 食堂へつゞきて焼酎法文でハムロウ君の家。
延有人も少しつゞく。図書館へ面白く。鈴木はハムロウ君の家。延有人も少しつゞく。
左に。15.30までつゞく大沼君と大沼君の会。朝古のつゞき。つゞき500番。
ハムロウ君の家へつゞきつゞき。20.00まで。つゞきつゞきつゞき。つゞきつゞき。つゞきつゞき。
大沼君。つゞきつゞきつゞき。つゞきつゞきつゞき。つゞきつゞきつゞき。つゞきつゞきつゞき。
しと。

26日 登校。文学史の講義。4時には伊井君と同車。山城^生君より社口^生君までして居て水、2人並一偏らず。守谷氏とてわが2人、会中対しに方々にわが「理
事名の不規則通知。石谷来てか。2人出てて正孝美術館へかき来れば工
侶令て水。植設事務(東洋工務)の会。242尾石谷君のふあで、只い

見。フーロ 噴霧室のワケと新世界通のワケ。(今ではじめて釜山と通じし)
奉山行状(台湾風物記(30))。古墳探穴地見表(40)『改正古墳云(50)』等
これ丸善の中(江戸、北極星の著者、改定、いかにして支那人無量取られ
は早くに出。成文屋の中村友成の満洲物語(在吾。丸善の1萬の書店で之
95男の子で出た供に之を引出で帰)。宇田喜一のほか。徳小増の「わ
ま」の言葉科の書籍送る。夕台入湯後村浦家のむき妻娘子のとてはてし
で帰る。

5月27日 朝早く起る音ありし。五時半に外へ出で、~~山内~~のすてい紙をす。郵便物
は9.00才也。上へ出て云地書房で井汲と支那民族生活史(50)。雨こ
ろ。鶴橋・交番。喰田のかき屋野へ取付合ひ中に入れてし。有念生、
後藤坪井来り。市川山崎来りぬ人。田村辰巳也。福岡政也也。
山内回市大阪の勤めなり。18.00早く出て今午にかき城平知又帰る
者二人、件。十松保の件。常陸山のサマ一件手紙にし。カステラ、海苔もす
て21.00帰宅。徳永嬢よりハナキ。喰田にて青木良吉、口舌飲飲史要
(45)「浮世絵抄」(30)「土人びん」(25)「孝案辞典」買ふ。

28日 登校。学業の調査、結果発表し、大波君と出て家へつれ帰り、ヒールのまじり飯食材。(大倉好子大学にて一ヶ月の1回つゝ、お茶話会と)。夜雨各呼ぶつておこる。

29日 登校。15.00すぎに時間つひに阿佐郡播磨に出。右で原で人何と不核
(20)「野上豊一郎」フリオハトリ(80)「雪」帰校。夕食をへ。夜半「雪」
イセムは又その生徒一人に。岩橋と奥に。C室長有馬
で帰国親友高せとてタムコト来。山下幸雄工主へつて。下
へは来とてと来。来とて工主へ。同和子へ。つて来。

30日 警校、土曜休むと生徒の通告。23才を以て、國語山江在⁷をこえ入江来
布氏に届け(20x8)、大阪女子大へかき佐野氏の希望へ付、支那文の高等三
級教授の紹介は。帰って教授会と、教授補充の名に西垣修あり。明大の
あり。学生来るが云々いふやうな事。17.00至野の卒業大分枝へかきし相野
会議中。呼出にて山下君の報告をしてこれ、古河氏に亭中。橋吉地とこれと
あり。50と30の新として帰る。夜雨各来り、女同。

5月31日 雨。虎屋之月女へ、雲泥^W「後」。
松平喜海へ肉合せ。会社へ牛乳色
のムシも一つも通らぬ様子。得¹²11.00に工炊事監督。20.50引取り。

6月1日 3.15に起床して仕事に出る。起床して3.30まで監督、菊池隆一と話し、
野口、太田と話し、晝食後仕事をする。創立記念日のため一休1000を以て、座敷に滞在して一
休話し、五野忠へこの日才會々24時間(3日11.00に視察会と)、18.00和歌山
へ帰る。有馬の300銭がゆつた。19.30散歩に出、丹羽十年のゆづり信子と話し、
村下徳永の地下室に24時間来た。くわがみ58.10に来た。西保、伊井2嬢
の話を9時頃まで、徳永嬢へ1部送る。

20 3.30 一方起て之員有監督。和倉、川、乙瀬、中村等此市へ入つ。9.00 又有2人至7水工
会社へ入て、11.00 7水工の。薄生へ散髪。up 乙、吉田抱駒(伊)買て之帰る。島根上の
より来たり。附書以会記由。山下幸雄へ入つた。此月凡そ21回幸了。

30(日) 11.00 570の幹事会、大の何世也。康平叔父の墓参を命じらる。13.00まで川上Rしか。城平叔父の自転車故障とて我家へ行く。one-manの声あり。洛衣と石巻候とをとりよ。各方散策のやを放出。鳴野とありき朝雲寺信1冊(20)買ひて帰る。

4日 登校、逢伊井、土井2嬢と会ひ、くわんて「漢大」学校にて西保嬢のからし
100を返す。伊井嬢は学座の6日分を返す。又土井君より「有るもの」を
和倉に電話。明日は、南海高屋の下賣場に会ふと決む。といひ出て去る。
屋敷。社業頭(30)をからしむ。アト切替「彼買入(80)。大吾と云ふ人から
伊井と云ふ(吉井、山井2君)、じんを23程を待つ。アト「種」に「ビー」のしつ
品をれと「かれ」久美子の会ふ。上へいかば「ハオ」を子嬢と、土井登校と。
待つ。けし出張手当340とす。

510 登楼。講義相也。出上六の416ハ本古史家アリ。古下。居。ハカシ。通。台。山。170⁷
 李君古詩生(10)⁷。講。端。清。ハ。Stories from the ancient history (30)⁷。書。ハ。十。二。
 高。重。尼。ハ。テ。右。名。ハ。余。ハ。首。ハ。五。リ。七。九。五。高。校。ハ。517⁷。と。ハ。ハ。唾。葉。也。ハ。ハ。ハ。ハ。全。ハ。200⁷
 品。ハ。ハ。夜。来。記。山。来。記。帰。山。ハ。ハ。古。史。家。ハ。来。テ。ハ。ハ。ハ。ハ。有。馬。草。ハ。ハ。園。書。家。ハ。ハ。北
 本⁷。事。ハ。ハ。来。

○ 登校。2日漢字試験問題提出。諸君事々々々出。田村要蔵九郎、下村八郎。
+ 見舞席のとき、大鉄石貨店見舞席。学校へへへへ授会(12月2日)(12月)

石名記

(文学座 武蔵野夫人健太)

国破山河在⁽⁷⁾の校正見ゆ) 於て十年前の五日会談中に、大(徳)君来てあり。二華
足しあふ出づ(山城、伊井と囂と居す。(伊井囂は「グロリア」也)。寒冷地帯
なつてゐるなり。古を屋で、晴れ日比(40)⁽⁷⁾度、夕飯後小中、4とつて
- (110)。此等山崎野原工、故郷(滋賀新聞)より、其の野原の地理。

218人, 227. anthologyの締切 2062. 井上 中島 隆之介, 佐々木 信子 等
3名 三好 正, 10日 正に in Poets' School, 9日 正に. 泣き止む。

是の故に三雄のよ、新々を夫と友人、三好道治の弟子と。

[illegible][illegible]

9日 登校。Miss 伊井の寒冷地帯へしてしよ。かつ上より手帳に付してハ
本おとせ史あり。百葉巻で「木茂日記(20)」^上「今鏡(20)」^上「雪の」^上「畫食」16.30
風呂へ入らばおとせ史事了。^上「肝臓」^上と。考九條へと思痛、和介收め。
おとせ史に「^上「^上」^上」^上食をてしよ。18.00 登校より校士に方布し。各
室のうらへて帰る。12 雲井貞長氏の「106」^上事附。津田有の「^上」^上
を引違の名講義をく。

10日(日) 朝退屋。12.00 去て云満庵へ。D 拾つて(80) 電にて諸方望を
心し。石波先生の本会に、之を捧し、中々以て金200円。あやまつて浪連
義文会、王静春の園年道徳会へ。神田先生¹² 授け申上りて之を一紙して
之を。同先生司会にて諸方望。橋川、柏原の諸先生の諸方望。金

中野先生(東京にて堀内氏一と「新隆」号で出され)商橋盛厚先生との推
奨で、學文堂へ隣に坐りし。かへつ坪井の身。19.0月付の乗車、學生2名金
かひなし。於陸軍「電」号。しる額相とせと。

6月11日 登壇、与才高持試驗と出たといふ事。西保安善 石造生士の会。田中は日本下伊番月か、訪人の中にいふ事と云ふ。山内は即ち電話でも存在。佐高の才高君の会。北島は上田書店にて本を買ふと家系、相模、在野の民族と宗教、電(90)。後者は愚考なり。72年6月の稿脚、改正金を入れた。

12日 登校。試験監督をやる。15時頃まで。幸原山書生のかまの部屋に
「両月物語」¹「申書口文法」²「書文」³「素人」⁴「書」⁵(95)。教科取寄法をやる。[書文
のテキストをやる。山城嬢の結婚の相手の調査をやる。上。八木あき子
女史のテキストをやる。4月20日「全取」⁶。21日。電報(14日入江幸市氏より梅田7月
号と編輯500受取)。梅田のかまの部屋に。人情物語。17.30までは登
校。夜學教へて帰る。宮知宮校の校長先生の会合。不事派をやる。上
の4冊。4月同日和子と猫をやる。塾の先生より15日16.30上へ事。西
山より。17日。八木山子と梅田の校長は幕僚長をやる。[梅田子と梅田]

13日 富田工務の技師先生挨拶に迎えしかば、速にお会合に付、城市和文来るを待たず出て登校。奥面保工ハ、中池内先生を7月来と云ふ。羽田に電話で此の如く。年大吟、さばり町物語と云ふ書物。下る休に各各車々々付つた如く。又又屋、繪葉書3張ある。歌吟会、来年各國文種を置くにはやめられし様子。帰る中村竹池郎の手紙、お説と胡の新聞社の紹介せりと。羽田に挨拶工の礼状。11日木村英一へつた状と2の書。

186 依永嬢. 印打純一トサカヘマツテ繪ハカサ。会社ヘナリ居課長の
吉子ヲオビセシメ。天理ヘ高橋君ヲ第92ニシテサカハ。在ナシオハ。云々
駐在ニ方ナリカニ一才腹立つ(ハオ嬢ニサカヘサ) ニシメ合ハナシ
君ニ合ハシ。舊徳社ニオヒテ情ヲ(吉岡君ニ西大寺ニ合ハ) 奈良ニシテ汽
車。女子大ニサカヘ野君ニ合ハニ君腹合ハカニシニ。横田純一氏ニ合ハ
順長英比呂氏ニ合ハナシ。屋下ニ在横田氏ニ合ハ。前氏ニ合ハ。〔在ハ
京都ニ在ハ〕女子。各々其ハハハハ喜メ田口嬢。ハナリナリ下ナシ。

の2冊が3冊代作。文芸子にすれば1冊で帰る。今明で下車。10日東京に上る。
 原稿は、中島の事5人でもしと雨。帰れば16.00で3冊を方々人車して。祖国
 社より年次号8月号の2冊。夜は下幸男工の2冊を4冊の5冊の1冊で
 出して南の1冊。但しこの組合を慶堂に他へ入る。1冊の貞明皇后の肖像。
 6月23日 帰郷の篇を書き出す。全社へかき1冊の向事を3冊で城平知文の書地合
 の方針を。humanist 5冊。出て関文の1冊を来去。平日、先きの3冊を7冊とし、去
 金の半馬氏4400冊。出て少しかき2冊。古くはWells, A short history
 of the world (100) 冊。夫人工の芳村君2冊の3冊馬で金貨7冊の2冊(2
 冊の2冊各居に合ふ。これ)。近くの古き屋で春大講義の書馬(105)。
 1冊の2冊双書2冊(150)。梅田工で来りて帰る。中工の1200冊のし
 出ると工の書櫃に受取。夕金後数冊を出て同書室の工の書波文庫(330)
 冊に集る。

二傳。杉浦美都子之山王中云。西之推主人之世有^二云云^一云云。島の人世。角川の
道道全集3巻1冊。

20日 余社へ事務(札)事付名を以て。バスにて天満。堺井に於てしも会へず。
保田に於て元氣上を以て(筆畫100)アハ、指で地圖を教示。教授
(佐藤孝夫南方紀行(10)93頁(60))

会。長沖氏はじめて出席。中島の本の残り70円で「学長」誌。23日8時30
アハノ橋に集り、7月30日7.30ナレハに集合と。いふ久重子に「同窓会名簿」を
し、之は「大江叔母、房下鬼舞」に上巻也と。中島家により姉さんに中岡華反
告し、帰リて不良を昭々に謝罪す。23.30 帰リ来リをベラで終る。

7月21日 会社へ中平康平叔父と話し、濱の22土分必配とを、濱の22田五のハ
かきと、池田先生への推薦文(わか書)を込。東洋大研究11の2巻了。午後
23分中平とせし雲井の電報、明日来了のハ中平「わか書」を7分ハ中平に
入る、との電報が来しに、3人へ京橋駅にて持せ。散髪して帰る。夜案
則ち内し、室長会、22.30より中平。

22日 原君に出かけたさいに車に電話で一打説明し、右の外泊届とともに出
告した。13.のころ雲井君も来た。角川に会った。稿料4回に分けて拂
ひと、谷川徹三氏が推薦された。8月中ころ送った。風呂に入らず
食はせず京橋まで送り、坪井に会った。明後日に上る。中島明子氏の13万
円について17日内容の手紙を出す。

23日 附乗の白浜へ。総勢29名。晝食は上野江で。14.00 白浜館着。午後
水泳のりて見。入湯2回。23.00 村まで下りて休息。

240 岩崎昭弥、羽田明、島松、八木、藤野、中川清氏へハガキ。午後観光バスで
瑞崎を周る中、臨海研究所の池で *Bougainvillea* を見た。(その夜へ詩「8月」
送る) 夜2年生の宣ひ詩2篇、歌3首をうける。春大正河津美しかな、
八木山老集

25日 朝入浴せしむ。14.のまでいはいし手15.のまで、上座柚木をとり(330)
 午後2.30まで寺着。和日先生、廣松、芳澤、有馬幸一、あいつ來た。

26日 朝金社へ中主電氣代排ひにヤリ。夜、~~金社へ~~出、折紙を焼いた。大書下宿。
「近世時人傳」(110)を買(夕暮待石見君来訪、ヒーロの人でござい、21.の送り
た、朝太郎の受取。又野忠の人が。夜、白話。今2頁清書了。

27日 朝、弘瀬の父兄来りて应封す。10.00会社へ行く。城平叔父へ来し。
大石短大の礼状。夜、室長会に原君出て長々としせへりし。12.00 畢。

28日 家居。中島の姓藤谷錫枝氏より、明子未亡人に代りて任す。運事。岩崎御深助、白漢のハカモ見。終日出す。病人3、4名出。

29日 家 - 午前中ふしに午後天理の鈴木松園へト 引後藤雪子(34才)

氏来訪。ハウス内を案内し、履歷書送れといふ。16.30出て桑津の日野君を訪ね極樂寺への還書となる。今山へゆきしに叔父より「岩波学芸文庫」2冊(野球と汽車)とスタイルブック1冊とをお中元に置く(2000+160)。甘本屋を見て岩波文庫、古今著聞集(80)、上田敏詩抄(50)、一茶俳句集(30)、中華六十名家言行録(50)と高野山(50分)を買ひて帰る。

7月30日 7.00 家を出、11.00 着、9.20 特急により 12.00 高野山成福
院に入、24.00 紅金様。客へハカシ。

3/10 23才光 散步。古本屋にて和泉式部(50) 有高、唐代の(文芸之研究)(90)
支那文学史(80)を買い。夜、竹下町に会議。おまひす。

8月1日 乙3才む古本屋へかき昨日買2の2世し人情本巻(150)買。土屋。塾君へハカキ。夜大阪人エ話了。院長先生エ292,3日暮打58回。

26 227へ会議。室物館へ行く。大師、李・義経、宇陀にあり。俳優は3
人、おのれ。帰ってまゐる。夢(8日)。19.00 自動車にてケーブル着。17.43に99
20.00 213大阪着。支那料理を会食。大阪駅まで学長と同車。帰宅すれば「本
居りおれり」3、20中にまた来る。212で経度へやまし。くちろる。212を視て、印時
。声「来る」。河原正博、岩崎昭彰、中川郁雄、徳永昭子、小川俊子、後藤少子
子氏、履歴書。

3日。くちで寝し。西任恵子へ「くれなゐ」。^{（複製）}『旅行所へ』札状。河原正博へ「くれなゐ」。^{（複製）}
徳永昭子へ「くれなゐ」。また中へ、祖國8月号来りしもおがねのさず。諸君
腸満（2A）より神見舞。伊井玲子へ「くれなゐ」送る。

40 朝会社へゆくとお父さんが、情^レているわ。(中野、明渡一生の暑中見舞) 前
 午に、12日の会の発起人として、15.の再々々々組合の向い^レて、お父
 郎は大江叔父への、^レてい^レかとして天満橋、桃草子74下(70)買^レて帰^レる。
 22.30に、室長会とて原課長の熱弁。

5日 9.00 客を出、9.26、鎌倉にて京都着。又か一買にて(10)羽田家へ行く。吉野書房
つ出たため、重飯に於て、13.30 田代。地蔵でつゝんは詩話会、佐田に逢え
り、在屋より出。吉沢、融陽局来会。近江詩人会19日満蒙太にて。17.00 十高根二
郎とともに出る(詩集代60 持)。前山佐美雄現、12日会す。あ一、羽田龍児
氏に会にてあかきと逢れ。佐田局よりハガキ。

8月6日 八木が東京の口を思ひに來た。午後會社へ行くが城平叔父不在。
西條が電報の宛先。高木が松原純一氏より、ハイネの借便。和田先生より
善海東大助教授、川久保弘前大学教授と石川由井便り。

7日 暑し。会社へ9.00すぎから。案内事件写真。雨谷の件は誠首せすといへ
と也。帰つてくるおしおのハハ木下裏来る。これらのが原稿とともに西垣修へ
の手紙(城平叔父に送付は家云云の上京也云々)の並方散歩。杉浦正一郎。
吉田生山城生石郡見舞。

8日 7.30 起ち、の家を出て9.00 鶴橋にて日野玄夫氏と符合せ、由坂
工の機本へゆく。12.00 トロッコ末で晝飯を食す。母見、千三百円をもち來し
の言ひ、わかし。賄婦をめとわかし。14.00 日野君去り、われ15.00 にて
林井井の中を駈けて坂田夫人と会ふ。10日までの講習すませて山前君へゆ
く由。此間かえて渡し、羊羹二俵をまぬで帰る(布施一十吸一徳庵)。
其の伊井嬢の歌。杉浦の猿蓑。吉川仁。清立希清、岸明子氏の
がキ。山城、吉田、岸、伊井諸嬢へ返事。すなわち伊井嬢の歌。其の
留守に父來り「万葉集研究」「源氏物語研究」をもちきし。

9b 9.00 出て 学院の中は誰にも。教授会記録作り。三苦君と一火大の
交り。出て大江の中は一人。千草月収10,000円で家賃4000。泣く様
り。松尾三郎の Bonus 22,500。森の Bonus 30,000。夕方信本は津
熊照子と暑中見舞。2日西浦孝子と同じ。幸吉と同じ。池田道夫と、西
沢人の会に来た。千草不在で水は食にも困った。

10日 会社へ中ましも専務赴し。竹村、後藤女史のこゝで会ふ。ともに出て、案に帰る。固定資産税調査に立会ふ。おし賜ふ。康平叔父話ありて、なつては、より来た中ましに出しあり。淡路へ墓参のこゝろと。帰つて、佐竹女史。佐野博士の暑中見舞と。河出の ~~一冊~~ 現代詩大系7の資料が、くれの速達を見る。佐竹、津熊、杉浦正一郎へハロウ。後藤女史へこゝはハロウ。

11日 会社へついで池田医院の中へ行って尿石をとり、康平と父に別れを告げて出た。保田を病院に見舞い、玉井君は狂水病で入院中。午前工、坪井宅に中絶した。保田は十年不快。保田の母は、与次郎の

帰れば八本壇あり。ドイツ語と生教師あり。18.00まへり帰す。会友より金に
500 圓了。西保下り人あり。塾中君より人あり。其の後英二子及妻より天理へ
出へりしと云ふあり出るにまじしと。

8月12日(日) 29日見有友布を穿る。真野長泰は、藤野一左衛門、青木富太郎(津野
忠元)人口内研究所以課長と)より9.1.かきと、11.のズボンの送還(出束上)
しとすて出。帝塚山に44分大は桂君の大いて狂女の予防注射2回せ
と。王哲君は Bonus (42) 117000 余と旅費 284) する。やまが食ひ coffee
のみ (120) へ、百貨店で、東洋中世史 (150) 買ひ、日本歌人の会に出かけ早
すむて 15.00 まで待たせる。吉村正一郎、橋本静庵、安田章生、米田雄一郎、
森岳文章に集り、小高根一郎来ず。高踏集¹ 522 の批評をい、吉村の野夫人
ほめてゐる。18.00 すぎ散会までには松浦の兄に会い、左へし千串かみ (90)
堀内良一、安田章生と出て警察病院へ行く。米田家の2人あつて退院せざる
様子。荻野と玉井君見舞はせしし。狂女病の薬はさうも出て高々
随筆 2冊⁷ (400) 買ひて満橋の帰宅。

13. 角川、妻野、有馬幸一、吉川、西保へハカサ。角川ハハ8月中に達ス。11.00
出テ私邸にヤエ(途中晝食)相馬実生見舞ハハ意外に元気(何ハ衰弱の如クシ)
安岡正篤の弟子知に近23年通信をとりだす。見舞300圓を墨子文に付テハ
木嬢に会ヒ、18.00再来⁷ニ出テ出、叔母のウチ散策、散策(90)、未摘⁷(250)買、
菓子(150)買ヒテ墨子文に付テ、ヤエテ帰リ来シ柏井信子嬢より夕食をまはシ、20.00
出テ京平叔父にヤエ、原君の如クハ大。叔母よりタハ2箱と帶のウチをもらテ出、甚幸
と願ヒ出テ、硫黄島⁷ニ坊ヤン⁷とテ図書館の石山買ヒテ帰ル。

14日 芳野清、西条春一、藤野一雄諸君へ入中。河出へ「家集詩集送水」²と入中。
14.50 八木橋来り、起張18.00までやり帰り。徳庵に中巻(250)圖書
室に置り来り、5分出す。

150 28梅垣博子と暑中見舞。書金どう。細雪¹より終る。夜母の千年へほど先男
の「エリ」もちゆく。神田先生市大の文学部長とそらぬ¹と。

16日 晴、朝10.00会社より呼ばれて、中村氏、横手叔父、父、佐野氏、中村氏、
父と、高田氏と、北川氏(20日面会)。横手叔父原居の2と高田、出て2丁食し、
2丁食の「水木」へ来て、24.00まで仕事。杉浦氏、奥の細道へ入る。

24日 山下幸雄氏、教員佐士口をこす利しとハイ知記了。解説か、バエシ。=B
明日山の影也舞。夜病人多く出。陰山先生ハ二安来てもいふ、おれも抱鬱。
25日 会社へおき圖書費8月分はらひ。右文の病人ハ人出しとさる。庶務課名
の「オモロ」といはれ。原譯書より風呂のせいでいや味いはれての考案ト云へた
(二十世紀54)。療養のニツム。しほらく会ハオとておれ大暑中をさけてバの
様方だ。少しお、25れハ金晴ホ、どうで常了。(万葉秀歌⁷と冊せよ)。けハ徳永
々喜ハえしのハカキ。新大阪新聞の1600。在田一彦、荒井平治市、28油香
よりハカキ。

8月26日(日) 一日家にあり。午2時父来り。西垣修君の題名封し紙紙2枚あり。中村竹二郎。石室よりハカキ。坪井より保田への誤解の紙。保田より2枚の返院す。石室直一見舞に来り。西垣君へ再考を以て手紙。并、即興の人(100)買ひ来り。これよりて落談。

27日 10.00 23 来診の 蔭山先生にてはつて結核の診断して貰ふにや。アヘンガ
レ反応と血沈とのみすみ 炭糖一天満橋にて坪井宅へ2 大寺前へ中を晝飯くら
て。けふ夕方まで。石山直一に会へば「現在罹病中」と。中西義章(布施市永和191)
に訪ておるに。天満橋で図書館の3.4外 幸田成友、日政、西之次(150) 大崎
繁雄「日本考古学新講(130)」外 山内三郎、日南貿易株式(60) 野村、八良、鎌倉
時代の佛教文学(20)を買ふ。山口実の字裏。17.00 坪井 {俳文俳句学(120)}
来りおれに5ハツとヒール。子らのトロツ70元と字裏とつてく。19.30 帰るの
氣の毒なり。西保恵次子とがハガキ。[陽性にて]

28日 朝會社へ寄り、池田医院へ行く。直沈 6-30 まで普通。いそがしき事象と
つてもう少し、4月12日と。帰って何か書く。正一へ宛てた首書き、阿村純
一氏へ礼状やが書く。

29日 終日家居、Milion ハ女嬢に代りてヤリ午後ハイブのヤネツの誰かを
解決ルニハイブ青春詩集^ルとすべしといひやうとす。午後修了ニ新醫院へ
往せしモヤカラシク水休^ル明日市立病院へ往いぬとす。翌中清市立^ル煙草^ル
店告せと、不快。高ニヨ明山よりハカチ。夜訪^ルの声し出でヤリハ電井界母子
西似をせりて来る。高^ルの先の黒田製藥つふれし。

300 家々 Jesuit やりしや。おれに郵便を。悠紀子市立病院へ行く。田村泰雄の階段に合はれ。子に安守番に成れや。夕方岩崎の跡事。10Fの岐阜へ行く。任田の屋敷へ行く。夕方にいふに主務で通り行く。

316 10.00 飯子、市立病院に入院し、留置。同日夕方、
本館の社報と1000、熱病を患ひ、遂に一か月の生を以て絶たれり。遺言
は「死すべし」といふこと。夕食後再び4年来り梨5ヶ果、池田医
院へ行く途程中、急に家へ帰る所あり。此の時、結果電報を以て、福
見井23.00 上へ告ぐ。除算教へ月収3万円也。同日夕方、

9月10 例会に欠けしゆんを以て 應務譯名を訂立誓合せしむ。 142無為

9月20(日) 島根県八木町。中野清之と金田由。あつたつ 4時40分 15.30分
坂一平と山田実と中野清之と金田由。日曜日の6日と。伊勢谷村と中野
清之と山田実と。1-1(60) 夏の間は。中野清之と金田由。

3日 札幌の物悲し。到り中子保健所へ来て居ます。午すこゝ会社へから公
大江叔母来合す。家へ伴ひ帰る(海/四方と油と呉る)。夕方暮君来す。
江崎山崎の原功の"キ"江口三五の食のしゝ話せがと。中山柳石雄の"ハ
カキ"山之の獲産根へ来しと。角山の松原純一郎の"ハ"中、原稿を取つた。
すこゝとアじと。

4日 8.30 出て 9.45 より 2A の英文を教わ。すなわち 日野君の文章のこへは、はじめて 5 万円のついでをうけ、[洋書] 電入は我々の出でし。不審。こゝから 10 万のしめ出の由ゆゑ、その令な「サ」堀内進口でも見せ、他は我が趣合せんとす。田村春雄に「サ」ゆゑ、6 日 11 時に来せし。お替(120)して帰る。いふちから日野君よりゆゑ。夜停電 10 分つ。(生)

5日 登校。高2Cの漢文教へ。徳川安定氏の西垣君の文をいしで帰す(伊藤君に電報で会ふ)。小阪のゆき堀横道に即日差支つてゐる中道文庫の文をいし(14日野君に13万円の所をいし)。 (授業3へ諸君来りてゐる留守のふり)。帰て臥床。

60 朝依子を保ちせ東と3人で留守。13.00ハ本明子姉来り。エ子女友の手紙を
来り。図書館のレポートとりおかし。面会書く話し相手も来り。腹立ちでこれ
を止りエの手紙書くところへ悠紀子来り。春雄姉と遊ぶ。夜雲井
書店の橋本妃とオハトラの催促電報。

7日 12.00 東小病院の中にとちやま子と共に来つたで市場へかま 2人1帯
来てみらいの帰りをまつて3時。田中禎子。赤塚氏アキカキ。木村英子
エハハキ。夕方ちま子帰るまで12月12と2544。西垣修君より2212
状。[の]内下阪伊東静雄の会に[と]。[か]エハ書ま[い]い[に]古愛請集の解
説の故角川、松原純一君の選りよしとせまる[る]る[る]ちま子に[と]る。

8日 中子病院へ来。依子と中子。たけしと中子。山田君等と中子。午後頭出
下中子は「中子不通とわかる。

96(16) 15257 Summer time 午後1時20分 8.00時 - 家に帰って夕食を食べる

9月17日 登校：宮崎嬢白化、室長是る。みち同じなり。なる倉中、仲良人來り、雪江へ
訪ねて承知。鹽田佐十郎といひてくはと。こゝろ。なる倉中へてをけ氏を訪ねし
に學院に。吉野部へ追ひかき氷山の教授会、此より。澤山は取田先生より社
求。中山柳左衛門工同。ハミの之候へんかき。河村先生へ送附。

18日 登校。12.00講義すまじ。去て佳亭へ中々石巻君と勤。山形君の新屋
ふとかりしおれまうの侍言長のや。多心ともう。着井さへ中々は「徳知母」と今
川夫人と城平知父と新説と。逃げて出して着井の高橋つては「中々は小雨。
71に上りて15.30学校へ入る。△シオボト」ちよつとや?。目郎君と夕暮才まじ、
高崎部サウー一おしとの此の三番君にせければ「金太授業教おめの中をいつた
とわらわからずと。腹立ちて夜半すませで帰れば「堀内エラの明日中々下。手引く
と。相馬実利軽快と。服部英次郎氏工の百16.00来ふと電報来る。万事が
都合あり。11より日精南信?、日吉南信?、日守神話のうて?(70)Pai百貨
店を買ふ。

19日 9.30まで会社へついで圖書館にもよ。そのついで上へつきて明子氏事務所、電話も
せられた。12.30天理看、去よりじん合で図書館、サリ-でも屋敷に。吉井君と話
し、大津君の日記をみるおおかきとしえい、金井君の会中、青柳姓義に芳子君への信
書をつた。佐田君ととも14.19翌日のついで奈良、前川依喜丸氏の会へは「下谷町老人ヒ
スナウ-」佐田氏は残るが私は無能力者なり。16.の女子大へ来て芝野君と、じん
木におられ、やがて服部英次郎氏に会って本1冊づい、送らしてもらう、10万
円余りになる。奈良では雪へおかしな名女の話になり、おめけて芝野君と1ヶ月
の中をすごす。4段18.30のバスにて帰宅。暖房よくなかず。母田君に礼状。
(4人会社に電話にて休講と教授会欠席を告げる)。

20日 17.30 家を出。横井に10.00まで。保田家へ行って植田郎義のたのめ横井宮
女(継叔父敬重らし)甲各医院とまはし。皆夫人の行きてやつてききつた。保田家
で昼食(三ッ篇の池田君が口を出して東京へ引上げらし)。保田三郎らしいらしい。19.38
にやう丹波市。羽田先生へ連絡し。図書館。話し相手もよく合点のつた。地徳同録
を出す。出て報告し。大佐君さかしきて。こぼりて八木家へつた。父君とて出来た女子
の結婚の方かひある。大佐君のつて口をうけ電也あはせ。出て下通り下り
横井2君に会い。吉橋家へつてお人あはせ。19.49にやうて21.30 宿に帰る。

高山英子4、2冊。宇野浩二手紙(松村、萩子2部各ヤリ、広津和、土橋、川村3部各)
祖國社より初2手紙2冊注文ありし。

9月21日 終日家居。9.00まで寝。12.00まで起床。八木嬢の手紙。石油
通の古梨嬢「まきい」と云々来り。これ急ぎ月替り。[ア]「ア」言語学「ア」来り。
大阪国文談話会 10月7日(木) 6時より10時より金子文子氏。相馬室長。現
の礼状西垣君へ。

22日 登校、1時間目にめんめん。数学の予習す(不筆記)。お茶で帰給めん。停車場で各君にめん。(鵜外480) とめんへん。橋のそばで大鍋で煮込。味噌汁とめん(5ツキースライス2ツめん) けめんめん郵便なし。(1255-1521めんめん)。

2) 日曜日、未吉より10月7日同委員会に。安田重生氏名考同人も5、6席にのぞいた。雲井より原稿早く。保田植三郎翁エフ小笹家の死。正午エフ今村常務部長、挨拶会。寮、エフ何れ寮長の仕事。クシオハトヲハス。

24日 秋分の日と、モリスの風邪。一泊入院。岸生よりレポート、羽田先生よりお礼状。
もじしと。宮崎君へハガキ。プルキオ⁷へ詩2。羽田先生へ保田直三郎のウ調査。

25日 雨。登校。その日八木竜彦の神田先生はレポート書き。4250円図書館史その他。安部之介
公宅とちかふ中后サラーおくるも止むを得ずて! 町政史の落書きでアッパレヤルを
勉めたいやと多し。漢文14.00才せ富へ帰れ八木竜彦よりおたじ。藤野君
より近頃感懐論。山口実より10月末お車の取集の出版記念会を口不快。尾形孝
はうす。録のヒフチ合へず。4250円方学。400送。4250円指導地。おまはに衣。
26日 雨。登校。三郎女史の不平。相野へ会ふに200円寄言。電話4241211月
子女とるふに上へゆきし会はず。帰りに指導地。おまはに衣。山口孝に会
ふはし。10月24日われ先程のゆき。おまはに衣。おまはに衣。おまはに衣。

27日 7.30 家を出て丹波市へ。午後9.30。小樽の少将に寄つてくれ。2つを左に1つ
書信へ。中々寿を教授の合。金井君不景氣。書信明子君も来てく。15.00
また八木家へ寄。鈴木氏へ。吉岡君に会。小樽へ18.30着。堀江の王様
代金。金井に。宮不正。文書社へ。交際。くれ。

28日 同市和工産協会の竹村夫人となりしことが。16.の出て上へたて、白月女子
のレポートをたし。さんかおてい、¹⁵紀伊はこれで終つていふ。三浦書房でかりか註記
(30)

実山江(30)。H257 風邪はいふし。掃き出し722。

9月27日 終日家事。掃き出し12/15とある。干草し。おつらし。

30日 雨。藤野一太郎より中島永徳よりいれしが詩のモヤンとせしおぼえ
なし。中島永徳より手紙。新後吟のモヤンとせしおぼえなし。服部英二氏
氏より名で受取らゆき156までを送り。末吉より同会金月事ばに。天
理短大。上原氏より營養の助手の待遇の件。夜急井。初なり。芋
しき来る。末吉好色と。怪し。中島永徳より。200枚。

10月1日 登校。正午試験。出来ず。中島生白海の字さくる。日曜の國文談
話会とやら。会費を学校より出してくれと。翻訳文学あれにはがれと。長沖の
教授なり。晝食後長沖氏を訪ねし不在。古本屋。見てみる。大より角のハ
ハハ。回子。ヤト送り。ハハハ。印刷所に中島ありと。若手。中島より。中島生
白海にて中島英二氏。中島生白海にて中島英二氏。中島生白海にて中島英二氏。
中島生白海にて中島英二氏。中島生白海にて中島英二氏。中島生白海にて中島英二氏。
中島生白海にて中島英二氏。中島生白海にて中島英二氏。中島生白海にて中島英二氏。

2日 登校。漢文教授。試験用のアリ。合計。中島文庫の金。中島文庫の金。中島文庫の金。
中島文庫の金。中島文庫の金。中島文庫の金。中島文庫の金。中島文庫の金。
中島文庫の金。中島文庫の金。中島文庫の金。中島文庫の金。中島文庫の金。
中島文庫の金。中島文庫の金。中島文庫の金。中島文庫の金。中島文庫の金。
中島文庫の金。中島文庫の金。中島文庫の金。中島文庫の金。中島文庫の金。
中島文庫の金。中島文庫の金。中島文庫の金。中島文庫の金。中島文庫の金。

3日 登校。中島文庫で散髪。3時。中島文庫で散髪。3時。中島文庫で散髪。3時。
中島文庫で散髪。3時。中島文庫で散髪。3時。中島文庫で散髪。3時。
中島文庫で散髪。3時。中島文庫で散髪。3時。中島文庫で散髪。3時。
中島文庫で散髪。3時。中島文庫で散髪。3時。中島文庫で散髪。3時。
中島文庫で散髪。3時。中島文庫で散髪。3時。中島文庫で散髪。3時。
中島文庫で散髪。3時。中島文庫で散髪。3時。中島文庫で散髪。3時。

4日 登校。中島文庫。中島文庫。中島文庫。中島文庫。中島文庫。中島文庫。

5日 登校。中島文庫。中島文庫。中島文庫。中島文庫。中島文庫。中島文庫。

中島生白海。4篇。中島生白海。4篇。中島生白海。4篇。

10月6日 登校。中島文庫。中島文庫。中島文庫。中島文庫。中島文庫。中島文庫。

7日(10) 登校。中島文庫。中島文庫。中島文庫。中島文庫。中島文庫。中島文庫。

8日 登校。中島文庫。中島文庫。中島文庫。中島文庫。中島文庫。中島文庫。

9日 登校。中島文庫。中島文庫。中島文庫。中島文庫。中島文庫。中島文庫。

10日 登校。中島文庫。中島文庫。中島文庫。中島文庫。中島文庫。中島文庫。

りおし状。衣川 呼へは「会社や常務部長への不満」云々。

10月26日 8.30 宛を出、中村PT治市へ達達し、会社へ行く。城軍初会止ま中と。
座下板文と話す。要する要はいい。至りの地で、左様課をからかひ、四
書費いひて3日運動会との地を、帰る。左方学会より2日東京駅で計
1回總會に出るまゝ来る。薩谷新村民より3,000の受取。服部先生より
連絡をしと。佐永君より達達して「2事3つ」と、田中禎子氏より10月曜
に川山守健史君来訪と。すぐ地圖かきてハカキす。運動会内題に「城
平板文を傳止せんとす。」
(922)

27日 登校、文藝大西鶴下へ赤出す。白石松本は西條善盛に歌を5曲しつた。
木村重吉と小伊藤のちで本兄、29日再びかく影末せし。石井君は街路へ
誘ひに来しかるに、坂井孝一がけりてあつた。集りて入。運動会、此處へは「城」
事ありきかと思ふ。又、月給3,000増しや否や5千とよし。16の35周年
式の礼服、此へへお初めに教母受。大に教母はYシャツ地、高年故々、靴
もわね母をいふ人。3人のよある2号とおかれ、5千とはなす也。澤口
七郎監製あり始末を清田より聞く。父増給いはず3,000と云ふ也。
川山君より今夜来ると電報。ゆえに父は池原迄行く事。川山君2時内
有まゝおつた迎へて且、四才親妻より、外へ誘ひ出す。此後之理へ11月
18日陰下行幸いつてその自共面としてせらるべしと也。

286 (日) 起きて金本治氏へ紹介状をかき、とくにあつた坂であつた、山口
宮にかけ、くわあ、鎌切月来と。至りて、平和の十四歳素をいふ。
満洲のいふ格の記念日として在る。手ふらして中毛し、何處のなもて有し
受、17.のころまい、7時内まで、神の使令をまゐり、幸せをさ
平道の男なり、大陰一の結核医をさし、中村のいふ、礼状。

29日 金銭定期1ヶ月台電で登校。また此の電話かゝりといふ史より来てくたさ
ついで八木明子と八木五郎同村長の此の肉合せ。早く来たといふやう。14:00ころ龍
神へ中をたて2階下へ木村来ず。活版屋の吸物と新神席内へ4時
迄の参り帰り。木村はより明日14:30ころ来たといふ。何か此のイヤナ
(50)雲の。然るに西垣修平の此相談。支那表を治るへかき。川久保
へ池田先生の手の案内。

10月30日 登校、運動会予定で遅刻なし。教育の時間小島^田に会い、心配となる。
14.00より古書整理。とく中々人を信じないことを知す。本村新太郎と逢って
くふくふいふ。森田世を訪問して夜学、藤野一雄就職に。宇尾道平が来より下町の
挨拶。錦木治成より川崎君を紹介してくれし。『東洋史研究』。大証の巻より
12月20日の中に来ると電話ありし。

31日 登校、喜慶なし。小島生漢文の70リシもてと常々云。是頃呼んでたつむ。世
垣君への書信の年紙作て已せ。碯君と出て京事の金のとわつたつ。前井さへや
き、朝比大にの知事より、胸服、急服、モーニング、スポンジと云ての方、今川の中村は長
文また情けず。向ホーへも云ひ了。大にの知母の言ひては、伊藤の祖母が王ひ
わが母、後喜の祖母を呼ひすてせしと。小島君より所出へわが字を送りしと。
整中君より至極受取。

11月10日 運動会にて 知父の元-エヴリ、合ホーバーにヤク、君々代、口模、堀増をいお
り、式辞祝辞長くいかな。職員の家と不便。市立病院の中は田村春雄退去。
中の中、斯故よふか来。服部英治即ち上の中つての黄紙。ハ本居より了、4日の
まんと。安藤を港より了、百田宗治氏佐田名宅へど之を(42)の運送、郵便
便代上や。蒙師寺降下母室より、今々冊とネクタイと書了。

2日 会社へおまじ大江氏の中西君への紹介書と重役会に知らせる。内外にて父
の会。鴻池利国に守屋君訪ねる。歌仙会に代わり夫人の。惜し
無為。中野英夫学校へ電話せし。京都より。午後所。八木先生と来るかと
思はれず。ゆゑ中野の。この。薩長絹。転氏。

3日 午後運動会と此の雨は、降らずに曇り。遊園会、会社、運動会と
結構楽し以下傷。森君まで五君の、此を南緯と云ふ。

4. (B) 会社の通称。朝の急付。10.1才かハ本居来る。向村が居るでいふとて得た。15.00
才。(是依互一才止至在 神寄書。先給に改つたか) 15.30 去て田村邸にハハハ「信」才。
19.00 才い給て本居め本居真下段を給てゐた。

午 登校。1限終へは「腹部より電話あり」と。2限終へは「まり待つ」といふ出てい
ん食せ。向江の中山家で中を夫人と話し、又出て大寺前に行く。石山君に「南
中」は「中西」を食うとばかりと。坪井の家に行くと二人将棋。坪井と負かす。夕
食よは「此片より」バスにて家へつれ帰る。かゝる(7)なし。

11月6日 元二二レク着て皇校、生々をわたり、太宰府に南にこの南^{なごり}~~なごり~~
 ちのち、し。あとで南に三三番かゝるし。追悼会に父^{おや}表の活
 中絶、注するのをとめておかしき漢によらず、すまして肉づかしき全同へす。月日下
 又死んだと申し、すき子の漢漢段々トイハル時ときまう。仲人は吉井
 市立図書館長と、伊藤、の荷物預けを山口義一、定にわりのし、英文書
 又書置了中五世話のちと、帰って夜生まへにせは“信田文部省より祀
 来り。2時限2名のなかまやめて帰る。ハルタつれば、安田書名のちと
 月まで。 (けの羽倉よりくひのちと、ちんきりちんきり西守中まじし)

76 登橋、大正初年一礼状、安田重生一親牛首、千代吉伊太司合の文芸講演
会、すかて合會、山手院下長、吉村、喜安、長部、伊太司合、金田の英文學双
書、信じての理と云へば、山手院下長、吉村、喜安、長部、伊太司合、金田の英文學双
書、信じての理と云へば、山手院下長、吉村、喜安、長部、伊太司合、金田の英文學双

8日 8.30 梅田、梅田駅より春日去車乗行なり。曙明徳病院にて、中西君、山
口君、櫻井君と会ひし。昼食をとり、その後山形病院を訪ねし。不在。天野忠
より二つオムツをもらひ、売花市場より本日までの便合を出せし。夜常務部長が出た。

76 天孫岩へ舟着て八か米、終日家番。学院より毎日来上と連達。若冬助教授の
礼状、成道文化研究所より届き也。川崎博士へ八か米。

10月 登校、守子反古に悩むが不愉快、金曜日の16時借りに来て成駒尼に
 還は来、守子にとて来るとし、守子屋の中は明日3000円金に可なり、中區の
 電話すれは気分よく入る、守子、治療はし、金曜10時に来るとハナ中事
 けの可なり。(印)

11日(木) 豊平、~~豊平~~^{豊平}の会館で、11.00在群像の上に登る。村田P+H
身体不足者更に所長と知り、専業主任の工業学校へ行くことになりし
て帰る。途中今川へ中絶。久美子の会館に来週上り月、水2日英法教習して
る。

12. 出勤。明日の準備いそぐ。三野女学校へ寄附品を運ぶ。宣明会へ、やめ
るとつふ。伊藤とくさの電話。本村孝孝より「王女令に休す」と。我々もアエエエ
4950円預金。工芸子校の笠井君の電話し同村君の話。山と川とありて現
代詩大集9巻せしらふ。毫毛の茸のうきと、西京橋と花の便りとの=篇の。

11月13日 文部省の理科増設検査にて8.45電検、9.00すぎに安部龍成、
園田幸次等と共に正造、桑田山和次郎、山田大生、園田首内、世務局長来校、考査
し、会食す。英語教員と書類の不備はこれの次、50%左右、園田氏にこれに
一見せられし（ハナリ州長官?）、すなわち既月2日を教授にのみ、おぼろしく
9、桑井等しかく、天理の仕事その他にお約束せし、これに合致せぬ、極
度、今夜も出東あるしと云、とて来り4950枚不足、不満の甚なり、愕然とて既
出より480枚と、これにオ28、山前より江一30冊、岩崎より送付されて至
りぬ。

14日 登校。空校では思ひ出話す。午後西保境にて24定章の同人の集まりといふ会あり。久至文月より神、如き音聴作りと紹介せしむ。すきで帰る。法永境、手紙を兄、笠井、依永、岩崎、末吉(24日午後会せん)へ、ハカキを、寝る。

15日 会社へから城南報社の赤坂まで来る。有馬の増設工事は、学校へから石段
先にたふしりのお合時、森繁夫蔵妻電はゆめと。長沖氏つかまへて10時30分
と、ふ、フーのやうに15.00より宮崎PTAの役員会、27日、有馬、堀内と母
親とあつた、夕方雨とふつと降る。清水は氏より、失業4ヶ月苦しむ。

16日9.00 家を出て上六、梅田まで電、ジキルとハイト、よめり中は“午すぎ”重食して16.00山崎治雄を訪ね、うさばから地田までたて、夕食すえと重食し、21.00まで帰宅、西垣修より、三角中唱子、2冊。革命のあかつきは王と法官とをたふくといふ友に譲す。肺の中を気を入れたと云う腰にすわりのこえをきかたまし。

17日 臺北、西垣修の院長の手紙。熊沢君南館の紙は20枚也。月給出ず、事大
出つ。熊沢、岩崎、長沖三氏の名簿作り、黄井寺の中を大に教母の1500借用、今4、一
寸等。譯林の中を名簿の紙に帰す。現代の文系「才」9巻、不「5」7号集り、石居君の「か
き、即倉の譯演19日15.30まで。

18日 晴日 家务、虫情始会 24日と雪が来、夜至口然いの来、田村の2人、訪大
至り貸し、周書はこれて来り、虫情と訪す、洋服店来り4人の雪の比、力水の水の外
套衣く主民来り。

19日 登校。月給出で、院先の公帳に記入。書以て其の20分を21、西垣君の28分を29に分る。仕事に専ら、羽倉君15分、石谷君15分、家内15分とせし、今14分を(14.30)其の分取つて17.00に、休養、食事、富25分(20)更21、羽倉君15分、

1月20日 2Cの授業を第1限から2限まで、30分間、ついで2A、数学教師教
育法とす。12.30上へ行く、サラー出ず西自から、橋が7階高に24.加る、土曜
会はだど、密して夜半にやせ字不氏の日野月とよへのれ儀なり、(鵜外倉等6下り
に十をかしめ書名主の端々(道不片糸機のもの)と話し合ふと、今●菊造の西
野半三氏ありと、 $\pi = 2$ より互移る。

22日 登校。石浜先生と話し、延達すまじ。また話し、吉井氏と会い、午、院舎に会い、
葛任利と4時間位との話し、おんすかた大浴、吉井の2君来る、との電車の
り、東園金曜の中心に大浴場の約して、茶井寺、日野月定と中といふと、おんす
し、おんすの預け書事よからんとおんす、大に高きしと無人、降ろ、宇田良氏より
客也書。おんす吉井氏といふ(1250)ノ瓶、おんす。

24日 本分社の定例は「和国地名論双」書来、1670通上。1)宛手大也り、曉明館へ電話
すれば、込めと、足利月生主へやうと書類頼り、13.の上六、方之次(194-1430水五建)、昼食
サビエール書籍等⁷2冊(160)置はせつて一而二、生駒まゝ垂り、膳までで53、方之次は
或るくじしありき度之れすあらんも、甚の終が、17.30才に晴給会へ、事已皆本所代

11月2日 朝の中は西村幸のわが姉のむへ行くのをきかす。やうに
即よりへかす。中江一、山形解降祝賀会のかきコボトの再¹²をうつてまら
しと、千石西村とアハ、お島まで出て、あつた、目せしゑにて、茨井寺、城軍の
年あつ、560万圓貸しくふ、人をせやと、くみ子とかきあせと合はれ、困るゝ
不、艶あせのあひまに、康平の女夫婦あり、けり月さきにナハ、我々の
ハカチ投入に、帰る来られ、考へてしてことある、すまぬとつてことあるし、色で話
し、お母とも話し夕食くらひて帰る、故迄更替かき、いかる。

27日 登校。寒し。よつ校医あり。二三人痛まし。夕方おとけでマイアリス⁵とデカ
×¹²の¹⁷費²¹。隣⁹の⁷コ-ヒ-¹⁶に¹⁴に¹²きた¹³林¹⁵ら¹⁸人²⁰の²²PTA²⁴の²⁶会²⁸に³⁰林³²の³⁴お
おれ³⁶一³⁸全⁴⁰ま⁴²が⁴⁴と⁴⁶い⁴⁸と。夜⁵⁰2⁵²時⁵⁴向⁵⁶目⁵⁸道⁶⁰向⁶²人⁶⁴。冷⁶⁶し⁶⁸帰⁷⁰る。金⁷²井⁷⁴君⁷⁶の⁷⁸手⁸⁰紙⁸²。と
こ⁸⁴や⁸⁶ら⁸⁸の⁹⁰口⁹²あ⁹⁴り⁹⁶様⁹⁸子¹⁰⁰。作¹⁰²ら¹⁰⁴し¹⁰⁶と。

29日 登校。冬カーハ、石波と話をし、お村屋旅館へ記念論双の来訪を知らせた。寄
りこめを封束し、また、長沙氏の12月宛の手紙を見せ、お村屋の都合で、お節君より4万
円を返す。金目へもつけ、ナハへお村屋の意を知らせ、PSに「ナハ」の字を
て帰宅。梅原孝子氏の手紙、お村屋の始末のこと、お村屋のこと。

30日 金曜 入札 11時 席費 400円 係員 2人 同席 2.3. 図書費 11月台紙 21. 11.00円

はPTAをく17960円（1ヶ月分）出さず毎回の支払を、お返しする旨を、アへ1枚書
へて返し、コヒの分、かんたん金で割り。食は貧乏じい子とまた ~~また~~ サ
のクローズと交際に出たて赤木をばややつ。慣れたままの享楽、面白くうら
ぬ。山梨父の、余方にくれぬと。甘女、陸軍子をつかまえてアへん
で、おかし。

12月25日 朝会社へ車を由らうと給つたに130円として申請。今月437-280
 頃。学校へ参り守車代にこのつらで感心され。石巻君の車を車庫より名
 簿より。北畠の古車屋で Bohner の神皇正統記(70)'のつらハット、社会進
 化と婦人、地位(30)'松崎鶴雄、産婦屋等(45)'買ひして停留所まで
 送られて帰る。そのモノをレガとつたへと込込送給手使ひに車らしき4モ子真
 車屋へ買物の中を明日の22と参りし。

26日 雨。家でこまめにふくは、常山始了のりへか。神保町へこし、
 新館へかきこむ。1日田中成行幸の姿を望む。正月2日来た。午
 すき一才雨やかし。東郷へかこむ。そのころ金社へちやく信託に前後
 して。13.25主権院急行。臨川へかき Variete 2年まへに主のり村書
 店に賣りし。京鑑史3冊(450)と Kotonette The development of
 China (200)と電のり左方文化のりかき著者のり。入安君としはくし。16.の
 ちて左譯史研究室のりかき信託のり。信託に和田三喜へかきとて電話のり
 来た。李朝史録のりと中國史入門のりとく。和田十士満双(1200)のり
 けしとて左譯史研究のりかきとて300かき。とて和田村十士に寄へり。村
 上嘉實郎のり。かきのり信託。重沢 隆章。田村実造のり。とてとて不惑し
 引留のり。酒三杯と御馳走のり。研究所へかき。著者のり。信託のり
 入安のり。風名新のり。信託のり。著者のり。左譯史研究のり。信託のり。V.
 信託のり。かきのり。と(和田は左譯の華信とてかき。左譯史研究のり。信託のり)
 20.30 出て主権院へかき。左譯史研究のり。21.のり。主権院へかき。22.01
 のり。帰宅。かきのり。世界史のり。左譯史研究のり。入安のり。信託のり。1月
 31日(4印)。

27日 三浦村へ亀井来り(洋筆工の来りし中云石橋谷村)と云ふて今社へり。明日廿
三ヶ一ヶ一ヶと云ふ来りて南に、薩井寺、日野明先生にお敬喜と云ふやけの赤塚山利

は接写して、句に返す。おせに洗濯する暇もない。年暮りだし、今一つとこ
つたなと大行々おみを留守。帰る大鉄で「労働基準法」読む。雲々大して
帰る。^{入道}おみ不眠のすに寝る。

12月28日 14.00 妻とといで、午後6時に出て電車に乗る。すいじりして今迄の事も17.00まで
かいてある。読手も、サラリーマンで習字。おれは Bonus 10,000。高橋君の薪金に読手
を工賃しつたこと、あし。帰って 4名の Bonus なるの気分をあはてしむことでもち来た。おれ
も送致す。おれも高橋より黒田の方が75万円で買はぬかといはれど、250万円ほど
となつ。吉岡氏にもおれに話してもよい。

29日 232-27 会社へやを上出の旨書さへて5月20日より已に留橋をして、天満橋にやを搬移(120)。1100に22即ち丹波の屋上(10)で、梅田へやを27内に移し、福島工業所が新大島へ、この男紅合意下とせり。1500に22とせり。21日記帖を22と52のあつて柳田、燈煙の語(120)で、月下の一語(200)で、梅井へのヒ(170)を3中き、キヨメんちの帰る。整中清より、くたふの列車會社と。

30日 純日臥床。⑤五。夕方、出、買物の中より釣つてきて提せし、米友車、徳郎と
柿を共に受取らむと云ふれし(100円)。代りの償相成してや。

31日 午まゝ臥床。午後奥の室で付々玄在より(斗場土)。夜池内、茶室、日野月、白鳥清、藤田、達田、工藤、宇野守、川村、神田、和田、羽田、石渡の諸先生、伊藤純王郎、堀尾雄、大い、田中康、田中昌三の諸家へ翌水かけ。又、祖國1月号東

